

マニー・リン カリグラフィーワークショップ 2019

● ワークショップ・スライドレクチャーの概要 ●

【ワークショップ】

WS ① フォールデットペンを使った表現 **Folded Pen Writing**

★ 大阪開催 ★



<講座概要>

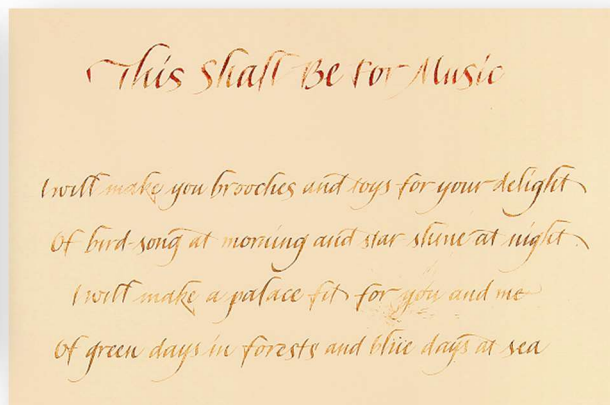
手作りのペンで描くテクスチャーを生かした表現を学びます。印刷機などで使用されるアルミニウムのプレートやコーラ（ジュース）のアルミ缶を使ってペンを手作りするところから始めます。手作りのペンで描くストロークはととてもユニークなテクスチャーを生み出します。段階を踏んだ練習を通じてペンに慣れ、独特なラインで文字を書けるようになります。

<受講者のレベル> 初心者の方からどなたでも

WS ② LINZ's バリエーション & 緩急に富んだイタリック体 (2 書体習得クラス)

Linz's Variations & Impetuous Italic – Study of Letter Style

★ 大阪開催 ★



<講座概要>

カリグラフィーに多くの書体があるのと同時に、1つの書体にも様々なバリエーションがあります。ここでは、ドイツのカリグラファー、アルフレッド・リンツによる書体のアレンジ「LINZ's バリエーション」と、ストロークにアレンジを加え緩急をつけたイタリック体の2書体の習得に取り組みます。

リンツのアレンジでは、ペン先の角度の変化、斜めに切り取ったような縦ストロークの止め方、美しく揃った傾斜が、文字に優雅さとリズムを与えます。イタリック体のバリエーションでは、ペンを回す、捻る、動きのある書き方を駆使して、生き生きとしたストロークの文字を書きます。

<受講者のレベル> 複数の書体（イタリック体を含）が書ける方

WS ③ 異文化の融合によるカリグラフィーの表現 Cross Cultural Calligraphy

★ 東京開催 ★



<講座概要>

洋の東西を超えて、様々な道具・画材を組合せたアプローチによる作品作りクラスです。2017年11月、京都にて開催の Writing Symposium で好評だったクラスを東京で開催します。

このワークショップでは、西洋と東洋のカリグラフィー(書道)の取り組み方の関係を探求します。初めは墨を使った塗りのテクニックと西洋カリグラフィーのライティングを、筆と平ペンを使って探っていきます。両方の文化の画材、プロセス、アプローチを

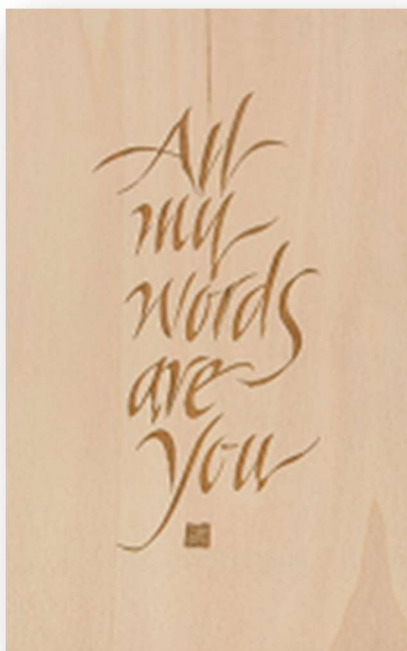
組み合わせて、新しい形のカリグラフィー表現を創造します。また、講師がここ数年にわたって発展させてきた、筆や墨、伝統的和紙など東洋の書道用具を使った幾つかのテクニックを学び、絵画的背景の作り方や、米粉糊を使って作品を台紙にマウントする方法、そして薄い紙に平ペンや筆でカリグラフィーを書く際の下準備のテクニックなどにも取り組みます。こういった様々なアプローチを学ぶ中で、カリグラフィー作品作りの新しい方法を発見していきます。またさらに重要なことは、「解放」できること、そしてより直感的、直接的にカリグラフィーで表現する能力も探していきます。

<受講者のレベル> カリグラフィーの書体を複数習得している方

WS ④ 緩急に富んだイタリック体 Impetuous Italic

<書体習得から作品のデザインまで>

★東京開催★



<講座概要>

カリグラフィーには多くの書体があり、中にはパッと見には読みづらい文字もあります。その中で、文字として非常に読みやすく、かつ華やかなイタリック体は、日本ではカリグラフィーの中心的書体です。

日本では、初心者の中にイタリック体を習得している方が多いので、今回は独特の緩急をつけるアレンジを学び、その文字を用いた参加者自身の作品のデザインまで取り組みます。初めてワークショップに参加する方も、文字に変化を加え、楽しくデザイン・作品作りと一連の流れを学ぶことができます。

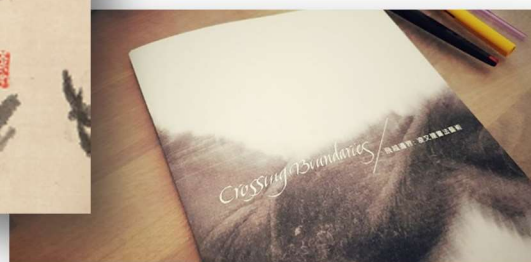
<受講者のレベル> イタリック体を書ける方

【スライドレクチャー】

タイトル：境界を越えて - Dr.マニー・リンのカリグラフィー

Crossing Boundaries - The Calligraphic work of Dr. Manny Ling

★東京・大阪 両方で開催★



<講座概要>

マニーが自身の芸術活動の軸としている「境界を超える」をテーマとしたスライドレクチャーです。2018年初夏に香港で開催された個展の内容ともリンクしています。

東洋的な感性によるアルファベットの表現、デジタルとアナログなど、東と西、古いものと新しいもの、勢いと静寂、彼のカリグラフィー作品の中で共存する相対した表現の世界を垣間見ることができるでしょう。

<受講者のレベル> 経験値を問わず、どなたでも参加可能です。